

事務事業 事後評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	地域文化振興事業				事業通番	5506	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策№	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策№	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費	重点プロジェクト	

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化芸術振興基本法						
事務事業の概要	本町の伝統・芸術文化の振興を図るため、補助金交付を通じて各種文化団体の活動支援を行う。複合文化施設を町民の芸術文化活動の拠点・交流の場として位置づけ、公共ホール音楽活性化事業により、町の文化芸術の更なる振興を図る。						
対象（誰、何を）	町民の芸術文化振興に寄与すると認められた文化団体						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	各団体活動を通して、芸術文化の振興を図る。						
成果の考え方	文化団体を支援することにより、本町の芸術文化の振興が図られている。						
【成果指標】							単位
A	補助金が交付される団体数						団体
B	文化団体協議会加盟団体数						団体

2．事業の実績

（１）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	969				
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	363				
一般財源	606				

（２）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2				
	1				
B	52				
	49				

（３）活動実績及び成果

活動実績	・ 芸術文化の振興を図る町文化団体協議会に対し、町生涯学習振興事業補助金を交付した。 ・ 町の文化芸術の更なる振興を図るため公共ホール音楽活性化事業を実施し、中学生を対象としたアクティビティでは127名の参加があり、また、コンサートでは150名の入場者があった。
成果	・ 補助金を交付し団体活動を支援することにより、本町の芸術文化の振興につながることができた。 ・ 公共ホール音楽活性化事業の実施により町民の本物の音楽にふれる機会となり、またじげんホールを活用した芸術文化の振興に繋がった。

3．最終評価

成果の方向性	拡充	（理由） 各種団体の活動支援を行うことにより文化の振興を図るとともに、公共ホール音楽活性化事業を行うことにより本物の演奏に触れる機会とし、町民の豊かな心の醸成と複合文化施設の利活用促進を図る。
コストの方向性	現状維持	（理由） 町民の芸術文化振興のための必要最小限の経費で実施しており現状維持とする。なお補助金を活用した事業実施に努めていく。
今後の方向性	生産性改善	（理由） 芸術文化振興のため、町民の芸術文化活動の支援や公共ホール音楽活性化事業を継続実施していく。

事務事業 事後評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	遺跡調査・整備事業				事業通番	16760	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策№	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策№	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法、福島県文化財保護条例、会津美里町文化財保護条例、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、会津美里町区域内開発に係る埋蔵文化財保護事前協議要綱						
事務事業の概要	向羽黒山城跡調査整備事業は、全国有数の重要な中世山城跡を保存し、永く後世へ伝え、調査整備を実施する。 遺跡調査・整備事業は、開発事業等に伴う埋蔵文化財保存のための対応をするとともに、出土品等を適切に管理し、保存や公開に努める						
対象（誰、何を）	①向羽黒山城跡への来場者 ②開発等の対象となる遺跡地						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①向羽黒山城跡が調査・整備されることで、関心をもって城を訪れる方が増加する。 ②遺跡の記録が保存され、遺跡地の情報が蓄積される。						
成果の考え方	①向羽黒山城跡を広く周知するために、城に関する事業への参加者数と整備資料室への来場者数を指標とする。 ②開発事業等に伴う遺跡地の照会件数を指標とする。						
【成果指標】						単位	
A	向羽黒山城跡事業等に関わりのあった方の人数						人
B	遺跡地の照会件数						件

2．事業の実績

（１）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	4,030				
国庫支出金	1,632				
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	2,398				

（２）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	500				
	1,039				
B	30				
	64				

（３）活動実績及び成果

活動実績	・向羽黒山城跡二曲輪地区において地形確認調査を実施し、城跡の解明と環境整備を行った。 ・向羽黒山城跡整備事業においては調査整備後に現地説明会を開催し、事業実施の成果を広く周知に務めた。 ・令和2年度に実施した高田館跡発掘調査の調査報告書を作成した。 ・不動産業者等からの埋蔵文化財包蔵地の照会事案について対応した。						
成果	・地形確認調査では、城道やそれに伴う石列等を新たに確認し、城跡の解明が進展した。 ・現地説明会の開催により、地域住民の興味関心を高めることができた。 ・高田館跡発掘調査報告書を作成したことにより、遺跡の記録が適正に保存することができた。 ・埋蔵文化財包蔵地の照会があることで、土地利用についての情報を事前に把握できるようになった。						

3．最終評価

成果の方向性	現状維持	（理由） 向羽黒山城跡調査整備事業を継続して実施するなど、文化財の保存や活用を図っていく。
コストの方向性	現状維持	（理由） 向羽黒山城跡調査整備事業を継続して実施するため、補助金を活用し事業実施に務める。
今後の方向性	現状維持	（理由） 向羽黒山城跡調査整備事業を継続して実施し、遺跡の整備や成果活用を図っていく。

事務事業 事後評価シート（令和3年度実施事業）

事務事業名	文化財保存・活用事業				事業通番	16761	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策№	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策№	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	該当

1．事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・文化振興基本法・会津美里町歴史文化基本構想						
事務事業の概要	町の歴史文化を後世に継承するため、文化財の調査及び保存、活用事業の実施、郷土資料館（仮称）の開設、町民の歴史文化継承活動の支援等を行う。						
対象（誰、何を）	町民						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	町民が、町の文化財や郷土資料を通じ、地域の歴史文化への関心及び文化財保護や活用の重要性を認識し、自分たちの地域に対する愛着や誇りを持つ機会を創出する。						
成果の考え方	講演会等による周知活動により、町民が地域の文化財や郷土資料に触れる機会をどの程度創出することができたのかを成果指標とする。						
【成果指標】							単位
A 講演会等により町の歴史文化に親しむ機会を持った町民の数							人
B 町民向けの文化財保護及び活用に関する周知の場を創出した件数							件

2．事業の実績

（１）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	161,519				
国庫支出金					
県支出金					
地方債	128,800				
その他	27,500				
一般財源	5,219				

（２）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	1,250				
	1,180				
B	5				
	5				

（３）活動実績及び成果

活動実績	・ 町内の民俗資料や考古資料保存活用のための郷土資料館(仮称)新設のため、新鶴庁舎の改修工事を実施した。 ・ 文化財の保護と活用に関する周知の場の創出を目的に町の天然記念物を題材にした講演会(17名参加)を実施した。 ・ 住民が地区の魅力について再認識を図ってもらう地域再発見事業を町内2地区(館、瀬戸町)において実施(23名参加)した。 ・ 小学生の郷土の誇りや愛着醸成のための町歴史副読本「知ってる？会津美里の歴史」を再版した。						
成果	・ 町の天然記念物に関する講演会を実施し、住民が主体となって地域の文化財の保存活用を考えることの重要性を町民に周知する機会を創出できた。 ・ 町内の小学生(4～6学年)を対象に学校教材として歴史副読本を活用することで、町の歴史に触れる契機となった。 ・ 地域再発見事業では、担当者と住民が、地区の歴史や文化財について住民自身の昔の思い出話等を交えて自由に語り合うことで、住民自身が地区の魅力を再認識する場を創出できた。						

3．最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 町内の歴史資料の保存活用のための郷土資料館(仮称)は計画通り工事が進捗している。文化財活用事業を実施し、町民の意識醸成を図っていく。
コストの方向性	現状維持	(理由) 継続して郷土資料館(仮称)建築工事を行い、開設準備のための資料搬入、展示計画について進めていく必要がある。
今後の方向性	現状維持	(理由) 郷土資料館(仮称)の開設に向け取り組むとともに、町内の文化財の保存活用のための事業を通じて文化財に触れる機会の創出を図っていく。